



令和3年12月16日

川西町議会議長 鈴木幸廣 殿

議会活性化調査特別委員会
委員長 伊藤寿郎

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

令和3年第3回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（議会活性化に関する調査研究）について、別紙のとおり報告します。

令和3年度 川西町議会議会活性化調査特別委員会 視察報告書

I 期日 令和3年10月27日(水)～28日(木)

II 視察地 ① 酒田市議会(山形県酒田市本町2丁目2番45号)
② 舟形町議会(山形県最上郡舟形町舟形263)

III 視察目的 議会活性化に関する先進地視察調査

IV 視察参加者 委員長 伊藤寿郎、副委員長 井上晃一、委員 橋本欣一、
委員 寒河江司、委員 遠藤明子、議長 鈴木幸廣
(随行者) 議会事務局 大友勝治

V 視察報告

1. 視察地 ① 酒田市議会
2. 日時 令和3年10月27日(火)午後1時30分から午後3時15分
3. 場所 酒田市役所
4. 視察対応者 酒田市議会議長 小松原俊氏
酒田市議会事務局長 前田茂男氏
酒田市市役所企画部デジタル変革調整監 本間義紀氏

5. 視察自治体の概要

酒田市は山形県唯一の重要港湾である酒田港と庄内空港があり、日本海と鳥海山の自然に恵まれ、庄内平野で育った良質な庄内米と鳥海山の伏流水で造られる日本酒が特産品であり、中細ちぢれ麺と魚介系スープが特徴の酒田のラーメンや酒田港で水揚げされる海の幸を求め、県内外からの観光客も多い。平成28年9月に鳥海山飛鳥ジオパークが日本ジオパークに認定。平成29年4月に北前船寄港地・船主集落が日本遺産に認定。酒田駅前の再開発事業(令和2年11月):交流拠点施設「MIRAINI(ミライニ)」がプレオープン(グラウンドオープンは令和4年春を予定)

6. 視察研修の内容

- ◇ 酒田市及び酒田市議会のDXの取り組みについて
- (1) 酒田市におけるDXの取り組みについて

- ① DX 推進の方針について
- ② 具体的な取組み及び期待される効果について
- ③ 取組みの進捗状況について
- ④ 職員のDXへの意識について

(2) 市議会でのDXの取組みについて

- ① 具体的な取組み（タブレット等の導入）について
- ② オンライン会議等の活用策について

(1) における調査事務報告

デジタル変革を推進するため3つの方針

- ① “ちいさな一歩”を踏み出し公益のまちの実現につなげましょう
- ② あなたも、まちづくりに参画できます
- ③ あなたが挑戦したいことをさまざまな形で支えます

具体的な取組み（3本柱）

I 住民サービスのDX

- ・利用者視点で、真に利便性の高い住民サービスを実現
- ・いつでもどこでも、自分に合った方法で手続きや情報収集

II 行政のDX

- ・外部との協働や柔軟な働き方で創造的で活力ある業務を推進
- ・事務作業を削減し、市民一人ひとりに寄り添うサービスを提供

III 地域のDX

- ・「デジタル×地域課題解決」に特化した産官学共創の仕組みを構築し、DXによる持続可能な地域の暮らしとソーシャルビジネスの共創を実現する
- ・デジタル時代に即した新産業創出と、産業の生産性・稼ぐ力の向上を図る

進捗状況

- ・市では、感染拡大等に在宅でも会議や決裁を可能にするとともに、ペーパーレス化を推進するため、タブレット端末を二役・部課長・各課等へ配備することとし、管理職及び係に1台のWi-Fiタブレットを導入

(2) における事務調査報告

・市議会でも、タブレット端末導入によりデジタル化を推進することで、ペーパーレス化と議会活動や業務の効率化を進める。タブレット端末を全議員及び事務局に導入。令和4年3月議会より運用開始となる

質疑事項

Q1 ペーパーレス会議導入するにあたり検討された先進自治体は

A1 福島県磐梯町

Q2 庁舎内の役割分担は

A2 全庁的なペーパーレス化の積極的推進に関する統括を総務課、ペーパーレス会議システム及びタブレットの運用統括及び技術的助言を情報企画課で行う。議会での運用の統括は議会事務局

視察報告 ②

1. 視察地 ② 舟形町議会

2. 日時 令和3年10月28日(木) 午前10時から11時30分

3. 場所 舟形町防災センター2階会議室

4. 視察対応者

舟形町議会議長 八楯太氏 副議長 奥山謙三氏 議会運営委員会
委員長 齋藤 好彦氏 議会地域活性化特別委員会副委員長 石山
和春氏 議会事務局長 相馬広志氏 事務局主任 伊藤優氏

5. 視察自治体の概要

舟形町は、山形県の東北部、最上郡の南端に位置し、郡境は南に尾花沢市、西南の一部は大石田町、村山市に接し、郡内では北は新庄市、東は最上町、西南は大蔵村と接する。

昭和29年12月町村合併促進法の制定に伴い、舟形村・堀内村が合併し舟形町として現在に至る。

町のシンボルでもある「縄文の女神」は発掘から約20年が経過した平成24年9月、国宝に指定される。

6. 視察研修の内容

◇ 議会運営における DX の取り組みについて

(1) タブレット端末の導入について

- ① 導入の経過（議会側・当局側の状況）について
- ② メリット・デメリットなどについて
- ③ 事務局の事務負担等について

(2) 議会の運営について

- ① オンライン会議の状況について
- ② 議会運営上の課題について
- ③ 今後の活用策について

(1) における調査事項報告

① 舟形町議会では平成 30 年 12 月定例会より、タブレット端末を導入し、本会議や委員会、議会報告会、視察研修等の議会活動に関する資料の全てを電子化し、タブレット端末で閲覧し、審議や調査を行っている。

導入以前は議会活動に必要な大量の資料を持ち歩いていたが、現在はタブレット端末一台で、どこでも必要な資料を取り出せるようになった。

また、今まで電話や FAX で行っていた事務局とのやりとりも、迅速でより正確な情報共有を行うことができ、議会活動の効率化につながっている。

経費としては、議員 10 名が月々にかかる使用料の 1/3 を負担しており、さらなる議会活動の充実を目指し、日々努めている。

② 資料等のデータ化により紙資源が節減。印刷・製本・配布作業も減少し、用紙・コピー使用料・郵便料・配達経費等（年間約 40 万円）の削減効果あり。

③ 資料等は、ペーパーレス文書共有システム（sideBooks）に登録することで、即時に共有できるため、印刷・製本・配布等の作業は大幅に減少し、業務の効率化が図られている。

(2) における調査事項報告

- ① R2年7月には、7月豪雨災害に関して、各議員の地元の状況及び意見の交換を行い情報の共有を図った。
- ② タブレット端末のバッテリー劣化による稼働時間、端末の画面サイズを更新時に検討を進めている。
- ③ 町民が参加しやすい議会運営と議会に対する関心の向上のため、ICT機器等を有効活用し、議会資料を投影する環境を整え、議会の進行をわかりやすくするとともに、より多くの町民が議会の情報を得られるよう議会の映像をホームページに公開するといった取り組みを検討し、開かれた議会運営を推進している。

質疑事項

Q1 導入にかかる負担金の割合は

A1 H30年当初予算は見送り、同年9月補正で予算計上（月々の利用料半額負担で決定）町が1/2、議員が1/2負担

Q2 今後期待できる事は

A2 タブレット端末で資料の確認を随時行えることができるので、情報の質、正確さ、量ともに向上することが期待される。

VI 視察報告の終わりに

今回、県内の1市1町の議会活性化の視察を行い、ポストコロナ時代におけるデジタル変革の推進と議会改革の重要性を感じた。

議会におけるデジタルデバイスの活用の目標は事務改善だけでなく、デジタル化の推進であり、議会情報の発信と住民のリアクションの可視化によって、利害関係を広く住民に公開しながら政策推進をする住民参加型の政策立案環境をつくることに期待できる視察研修であった。